

自転車部の思い出 平成 12 ～ 14 年指導 小川茂樹

自転車部 40 連覇おめでとうございます。

私が自転車部を担当したのは、平成 13・14 年度でした。担当する時は、連覇を止めたらどうしようかとプレッシャーでいっぱいでした。春休みぐらいから練習を始め、昼休みは学科、放課後は体育館で技術試験に向けての練習を毎日行いました。子ども達も伝統を守ろうと一生懸命取り組んでくれました。

学科試験はほぼ満点を取れるまでになり、残すは技術試験だけでした。ピンを倒さずにいくことができず、夜遅くまで練習した記憶があります。

大津地区大会では、学科試験を時間いっぱいまで見直している子ども達の姿を覚えています。ピンを倒さずにいくと他の学校の児童や保護者から「おー」という声が聞こえてきました。私自身誇らしく感じていました。

子ども達にとって、自転車部に入ること、ひとつのことを成し遂げたという大きな自信を得ることができず。今後、益々プレッシャーを感じるかと思いますが、気持ちで負けず、伝統を守り続けてほしいと思います。

河原小学校自転車部は重要無形文化財

平成 15・16 年指導 田中 あかり

河原小学校自転車部四十連覇、おめでとうございます。すばらしいですね。お話を伺ったときは、驚きというよりも、「そうかそうか。」と嬉しく思いました。

私が指導を担当したのは、平成十五年から十六年（三十四連覇・三十五連覇）の二年間でした。当時の子どもたちは、負けず嫌いの根性者ばかりで、うまくいかない時には悔しくて涙を見せる場面もたくさんありました。そんな子どもたちですから、当然、私自身も彼らにきたわれました。

河原小学校は平成十二年に改築されてきれいな校舎になりました。児童も職員もみんな一緒に食べられるようになった広いランチルームもできました。給食を食べ終わると、五、六年生の自転車部の子どもたちは、すぐに私のところへ筆記の問題プリントを取りに来ます。早い子で



平成 15 年の県大会、雨の降る中レインコートを着ての競技を終え、準優勝を手にした、当時の精鋭、左から、当時 6 年生の、西山佳織さん、村上知也さん、内山翔旗さん、秋吉溪さん

五分もすれば、解答を終え、再び私のところへ採点を頼みにやってきました。子どもたちにとって、自転車部のなかまはライバルですが、みんな真剣な表情で、そして無言で取り組みます。固唾を飲みながら私が採点を終えるのを待ち、その点数に一喜一憂する子どもたちのことを、今懐かしく思い出しています。

平成十一年から、自転車大会の県大会は、免許センターの広場で行われるようになりました。これまでの大津地区大会後は、昇降口前の駐車場にラインを引いて屋外競技場をつくり、そこで練習ができるようにしました。体育館の半分は、雨の場合の練習用にそのままグリーンシートのコースを残し、運動場の一角も自転車の路上コースになります。まさに、学校の敷地の大部分が自転車部のために占められていました。学校全体が、自転車部のために力を注ぐのです。大会前は、学校も地域も心一つになるのを肌で感じました。

そんな中で、子どもたちは、プレッシャーに押しつぶされそうになりながら、涙を流しながら、それでも連覇に向けて突き進まなければならないのです。それは、絶対に負けてはならない土俵に、立たなくてはならないのです。それは、正直、私たち指導者も同じでした。ですから、大津大会優勝は、それはそれは、他の何にも代え難い喜びというより、安堵感の方が大きかったかもしれません。

現在は、連覇が始まった当時の方々のお子さんたちが、河原で自転車をやっています。親子二代で連覇を目指すなんて、とても素敵なことです。他のどこにこんな学校があるでしょうか。今こうして連覇が続いているのも、地域の皆様と共に積み上げてきた賜なのではないでしょうか。だからこそ、河原小学校の自転車部連覇は、まさに重要無形文化財だと思ふのです。ですから、いつまでもいつまでも、みんなで力を合わせて守り続けて欲しいと思うのです。

ほんの二年間でしたが、河原小学校自転車部の担当が出来たこと、そして、四十連覇という歴史の一部に加わることができたことを、今、大変嬉しく誇らしく思っています。

五十連覇、六十連覇・・・積み上げる連覇のお知らせをいつまでも楽しみに待っています。

受け継がれる伝統の力！

平成 17 ～ 19 年指導 松本克己

私が6年前に河原小に赴任した時、当時の中川校長から自転車部の顧問をするように言われました。その時はまだ河原小が天津地区の自転車大会で連覇中などとは全く知りませんでした。さらに自転車部の練習方法なども皆目見当がつかず、ちよつと戸惑いました。しかし現在の主担当の田中先生が来年は転勤の可能性が高いので、私が後を継がないといけないと言われて、一応担当することになりました。そこで練習方法を田中先生に教えてもらいながら自転車部をスタートさせました。そこでまず驚いたのは、しっかりと計画されている自転車大会までの練習プログラムでした。毎日行われている学科テストや常設のコースを作ったの体育館での実技練習には感心させられました。そして1年目は、とても実技が上手な6年生の活躍で見事に35連覇しました。

2年目からは、私が主担当になり自転車部を進めました。しかし、この自転車部の子ども達は顧問が変わろうと、関係なしに歴代の先輩たちから受け継がれている練習方法やコツやテクニクなどをしっかりと受け継いで揺るぎなく練習に励んでいました。この年は6年生が3人しかおらず回りから連覇を不安視する声もありましたが、子ども達はそんなプレッシャーは軽くはね除け6年生はもちろんのこと5年生も活躍して無事36連覇することが出来ました。私自身は内心ホッとしてました。3年目は、昨年活躍した5年生が主力となり、後輩をしつかりひっぱりがんばりました。おかげで団体は勿論37連覇して個人戦も上位を独占しました。さらに県大会でもみんなしつかり頑張りまくった。4年目は、私が河原小に来て始めに担任した子どもたちが6年生になっていて大活躍しました。この年は大会会場が西原村だったこともあり応援も大変多くそんなプレッシャーの中でも子どもたちはしっかりと頑張り見事に38連覇しました。

これまで頑張つて連覇を続けている子どもたちを見てきて河原小の伝統の強さを感じています。脈々と先輩たちから受け継がれてきている練習ノウハウや精神的な力を強く感じます。そんな河原小の受け継がれる伝統の力のおかげで連覇は続いているんだと思います。それは素晴らしい河原小の財産だと思います。それはこれからもずっと受け継いでいけると思っています。河原のみなさん40連覇本当におめでとうございませう。

努力と根性で勝ち取った40連覇

平成 20・21 年指導 野上雅志

今年度、40連覇達成という大きな節目を迎えるにあたり、自転車部の選手たちだけではなく、特に代表選手となりうる能力の高い選手たち。しかし村中達は大きな責任を感じていて、中、この大役を見事に果たしたのも彼らの方々が注目する。必ず優勝するぞ、という並ならぬ決意とそれを練習で実行した選手たちの根性がありました。練習は年度の7月、39連覇達成の後、通常ならば自転車部の練習はそこで終了です。2学期に備え、長い夏休みに入ります。しかしそのとき、5年生、本年度の6年生は違い、照り返しの中、彼ら一本橋の道具やピンを出し自主トレ、レニングを始めたのです。そこには自分たちが課題とする技術を早く自分のものにしたい、という強い意志が感じられます。昨年度2月から始まった学科試験の練習も文句一つ言わず、一日のうちに一番遊べる時間帯でも選手となった彼らは一生懸命に交通法規に取り組みました。その甲斐があつて本番前には、60点と0点満点の学科試験で毎日の平均が59.0点、60.0点という素晴らしい実力を発揮するようになったのです。そしてそれは40連覇達成の大きな原動力となりました。

私は本年度、自転車部顧問として、この歴史的な瞬間に立ち会うことができ、本当に誇らしい気持ちで一杯です。そしてこの河原小学校自転車部を大きな力で後押しして下さった村中様をはじめとする西原村の皆様、交通安全協会、の先生方、おやじの会をはじめとする保護者の皆様に心よご支援、ご鞭撻、本当にありがとうございます。ありがとうございました。